

いのちをたいせつに

石垣市立真喜良小学校 一年

島中 愛佳

「ばあちゃんのをき、にぎってごらん。」
ひいばあちゃんがいいました。

「あったかいね。」

わたしがいうと、にっこりわらってくれました。
「せんそうのはなしをおしえて。」

というとい、おばあちゃんは、なきながらは
なしてくれました。

「いきているだけで、しあわせなんだよ。」

「なんで？」

「たべものもない。くつもない。でんきもな
い。れいぞうこもないのがあたりまえだった
んだよ。」

わたしは、びっくりしました。だって、なに
もかも、あるのがいまはあたりまえだからで
す。

でも、ひいばあちゃんは、ものがないのはふ
べんだとおもわなかったといいました。

それよりも、

「いのちが、一ばんたいせつなんだよ。」

と、なんかいもいっていました。

せんそうでにげるときに、となりで、ばく
だんがおちたそうです。こわくて、こわくて、
にげるのにひっしだったそうです。いきるた
めに、いのちからがらにげたそうです。そん
なたいけんをしたひいばあちゃんのはなしは、
おかしのはなしだとおもっていたけどいきて
いるひいばあちゃんのはなしと、きのうのは
なしみたいでした。かなしくて、こわかった
です。

ぜったいにせんそうはいやです。

いきているだけで、しあわせです。

おとうさんがいて、おかあさんがいて、かぞ
くみんながえがおでくらせるまいにちが、

ずっとつづくといいな。ひいばあちゃんのを、
あったかいて、わすれないよ。

「ひいばあちゃん、わたし、いのちをたいせ
つにするよ。ありがとう。」